

# 特集

## 認知症になっても お互い様

急速に進む高齢化。本庄市においても、人口の約3割が高齢者です。そして、高齢化が進むとともに、認知症の方も増えています。2025年には、高齢者の5人に1人が認知症になるとの試算もあり、認知症が身近にあることが『当たり前』な時代がきています。★高齢者福祉課 25・1722



### 認知症とこれから

認知症に対するイメージは人それぞれですが、「自分や家族が認知症になったらどうしよう」、「認知症の方は何も分からないから関わるのは難しい」といった、不安や恐怖を感じている方も多いかと思えます。

これまで広報ほんじょうでは、地域で活動している認知症サポーターや介護施設で働く方をおして認知症について考えてきました。

今回の特集では、これまで個々で行っていた活動から一歩前進し、サポーターも認知症の方も一緒にチームで地域づくりを行う『チームオレンジほんじょう』を紹介し、認知症とこれからの本庄市について考えていきます。

### チームオレンジほんじょうとは

チームオレンジとは、認知症の方やその家族と、認知症サポーターを中心とした地域の支援者をつなぐ仕組みで、近年、全国的に広がりを見せています。

その仕組みを整えるため、市では「認知症になってもお互い様、笑顔あふれる本庄市」をコンセプトに『チームオレンジほんじょう』というボランティア団体を設立しました。

### チームオレンジほんじょうは、

認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座を受講し、認知症について知識と理解を深めた『オレンジサポーター』が認知症の方やその家族と一緒に地域活動を行います。認知症の方との活動は、支援する人、される人ではなく、互いに行うことができることを協力して行い、「お互い様」の関係を大切にしています。

### 地域との連携

日頃から認知症地域支援推進員として活動し、認知症について深い知識をもつ『オレンジコーディネーター』とともに、月1回意見交換やサポーター・認知症の方・地域をつなげる連携づくりに取り組んでいます。現在は、オレンジサポーターとオレンジコーディネーターが連携し、誰でも気軽に集える場所「オレンジカフェ」を開催しています。

## チームオレンジほんじょう 地域連携のイメージ

### チームオレンジほんじょう



認知症の方やその家族  
オレンジサポーター

### 連携する地域の団体や事業所

- ・認知症の方やその家族
- ・本庄市
- ・地域包括支援センター
- ・かかりつけ医
- ・認知症サポーター
- ・金融機関 など

### オレンジコーディネーター

チームオレンジほんじょうと一緒にサポーターと認知症の方・地域をつなぐネットワークづくりに取り組む。



オレンジサポーターとオレンジコーディネーターが月1回集まり、情報共有や意見交換を行う。

## オレンジカフェとは？

オレンジカフェは、認知症の方やその家族、地域の方等、誰でも気軽に集える場所です。認知症の方もそうでない方も、認知症に関する思いや悩みを話したり、一緒にゲームをしたりして交流を楽しんでいます。

『チームオレンジほんじょう』では、地域の薬局やショッピングモールと連携して、買い物や空き時間にふらっと立ち寄って、こどもから大人まで楽しめるオレンジカフェを開催しています。



市内のオレンジカフェについて、詳しくは市HPへ